



令和8年度 東栄町がん検診のお知らせ ～年に1度は受けましょう～

裏面もご覧ください

① 集団検診(東栄町で行うがん検診)

	前立腺がん	肝炎	骨粗しょう症検診	胃がん(バリウム検査)	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん	肝炎						
内 容	採血検査でPSA値を調べ、前立腺がんの可能性を調べます。(住民健診の採血と一緒にできます。)	採血検査でB型、C型肝炎に感染していないか調べます。(住民健診の採血と一緒にできます。)	骨に1分間、少量のX線を照射し測定します。	バリウムを飲んで胃の形や粘膜などの状態や変化をX線写真で確認をします。	自分で2日分の便を取り、便の中に血液が混じっているかどうか2日分の便を検査します。	子宮の入り口を軽くこすって細胞を取り、異常な細胞が無いか顕微鏡で調べます。 ※15分程度、痛みは少ないです。	マンモグラフィによるレントゲン撮影を行います。	採血検査でPSA値を調べ、前立腺がんの可能性を調べます。	採血検査でB型、C型肝炎に感染していないか調べます。						
対 象 者	50歳以上の男性	※1	20歳以上の方	40歳以上の方	40歳以上の方	20歳以上の女性	30歳以上の女性	50歳以上の男性	※1						
自己負担金	500円	無料	無料	500円	無料	500円	1,000円	500円	無料						
受付時間	住民健診と同じ			午前8時30分～11時											
場所・医療機関	東栄診療所			場所:東栄保健福祉センター 医療機関:聖隷予防検診センター											
日 時・予定地区	集団住民健診と同じ日に実施 ①住民健診と同じく、予約制です。 ②前立腺がん・骨粗しょう症検診(骨密度検査)をご希望の方は、福祉課へ予約が必要です。 ③胃がん検診後2週間はバリウムの影響を考慮し、骨粗しょう症検診を控えて下さい。 また受診時は、ベルト、ファスナー、ボタンがついていない服装で受診してください。			<table border="1"> <thead> <tr> <th>日にち</th> <th>地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月22日(月)</td> <td>御殿・振草</td> </tr> <tr> <td>7月21日(火)</td> <td>下川・園</td> </tr> <tr> <td>8月18日(火)</td> <td>本郷・三輪</td> </tr> </tbody> </table>		日にち	地区	6月22日(月)	御殿・振草	7月21日(火)	下川・園	8月18日(火)	本郷・三輪	 	
日にち	地区														
6月22日(月)	御殿・振草														
7月21日(火)	下川・園														
8月18日(火)	本郷・三輪														
※1 肝炎検診対象者:今年度40・45・50・55・60・65・70歳の年齢を迎え、過去に健診等で肝炎検診を受けられたことがない方。 ※2 がん検診の送迎希望の方は、希望調査票『集団がん検診送迎を希望する』の欄に○を付けてください。 ※3 前立腺がん検診をご希望、骨粗しょう症検診をご希望の方は、希望調査票の裏面に記載ください。肝炎検診の対象者には後日、案内を送付します。															

② 個別検診(町外で行うがん検診)

受診方法	希望の医療機関へ直接電話し、受診日の予約を取ってください。検診日は町から送付された受診券を持って受診してください。
内容・対象者	集団検診と同様です
自己負担金	町が発行した受診券を持って受診した場合は、集団検診と同じ額になります。胃がん検診の内視鏡(胃カメラ)は1,000円です。受診券を持たずに受診した場合は、検診料は全額自費となります。
受診可能期間	令和8年6月1日(月)～令和9年2月26日(金)

個別検診実施医療機

胃:○…バリウムのみ、◎…内視鏡(胃カメラ)実施可能

医療機関名	場所	胃	大腸	乳	子宮	前立腺	骨密度
新城市民病院	新城市			○	○	○	○
しらゆりクリニック	豊川市	○	○	○	○	○	○
総合青山病院	豊川市	◎	○	○	○	○	○
聖隷予防検診センター(三方原)	浜松市	○	○	○	○	○	○
聖隷健康診断センター(住吉)	浜松市	○	○	○	○	○	○
浜松赤十字病院	浜松市	◎	○	○	○	○	○

○ 問診票の送付予定時期について

集団検診(町内で行うがん検診)をお申込された方は、実施日に合わせ、案内と検診票を送付します。
 個別検診(町外で行うがん検診)をお申込みされた方は、詳しい案内と受診券を送付します。

希望調査の提出締切 令和8年3月25日(水)

〈問い合わせ先〉福祉課 健康推進係 0536-76-1815



がん検診を申し込まれる方へ

がん検診は、特に症状がない健康なみなさんが対象です。がんがあっても、症状がでるまえのがん(=早期がん)であることがほとんどです。早期に発見できるために負担の軽度な治療で済みます。

がん検診の種類	病気と予防について	検診・精密検査について	がん検診指針※の対象者と受診間隔	東栄町が実施する対象者と受診間隔
肺がん	<p>○呼吸の際の空気の通り道である気管支、ガス交換の場である肺胞の細胞が、がん化して起こる病気です。</p> <p>○がんの主な部位別死亡者数の第一位は肺がんです(2023年)</p> <p>○予防は、たばこを吸わない、他人のたばこの煙を避けることです。</p> <p>○肺がんの治療法は日々進化しています。5年相対生存率は35%です。</p>	<p>○肺がん検診は胸部X線検査による検診です。</p> <p>○精密検査の方法</p> <p>①CT検査</p> <p>②気管支鏡検査:口から内視鏡を気管支に挿入し、気管支の観察と必要に応じて組織検査を行い、悪性かどうかを診断します。</p>	<p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p>	<p>住民健診希望者</p>
胃がん	<p>○胃にできるがんです。</p> <p>○胃がんで亡くなる患者さんは依然として多く、死亡数は男性3位、女性5位です。</p> <p>○胃がんのリスク要因として、ヘリコバクターピロリ菌の持続感染、喫煙、食生活(塩分の多い食品の過剰摂取や、過度の飲酒、野菜、果物の摂取不足)が指摘されています。</p> <p>○胃がんは治る病気になりつつあります。5年相対生存率は67%です。</p>	<p>○胃がん検診には、従来法であるX線を使用した胃バリウム検査と内視鏡検査の2つが推奨されています。</p> <p>○精密検査の方法</p> <p>①上部消化管内視鏡(胃カメラ):口や鼻から細い管を挿入し胃の中の様子を直接観察します。</p> <p>②異常がある場合は組織検査を行い、悪性かどうかを診断します。</p>	<p><バリウム検査></p> <p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p> <p><内視鏡検査></p> <p>50歳以上</p> <p>2年に1回</p>	<p><バリウム検査></p> <p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p> <p><内視鏡検査></p> <p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p>
大腸がん	<p>○大腸(盲腸、結腸、直腸、肛門管)にできるがんです。</p> <p>○近年、急増しており、毎年5万人以上の方が、命を落としています。特に女性では部位別死亡率のトップです。</p> <p>○運動や食事などの生活習慣を見直すことで、リスクを減らすことが可能です。定期検診を受けることで、大腸がんが見つかってからも早期に治療することで進行を抑え、再発を防ぐことができます。</p> <p>○大腸がんは治る病気になりつつあります。5年相対生存率は約71%です。</p>	<p>○便の中に血液が混じっているかどうか2日分の便を検査します。</p> <p>○2日間の便潜血検査でいずれか1回でも「陽性」と判定された場合は、大腸がんの可能性があるので早めに精密検査を受けましょう。</p> <p>○精密検査の方法</p> <p>①大腸内視鏡検査:肛門から内視鏡を挿入し大腸の中を観察します。</p>	<p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p>	<p>40歳以上</p> <p>1年に1回</p>
乳がん	<p>○乳腺にできるがんです。</p> <p>○女性に一番多いがんで、40~50歳代をピークに発症や死亡が増加しており、日本女性の約9人に1人が生涯で乳がんにかかる危険があります。</p> <p>○遺伝的な体質の他に、早い初経年齢、遅い閉経年齢などが発症する危険性を高めます。また、アルコール飲料の摂取、喫煙(受動喫煙も含む)、肥満などが、乳がんにかかる危険性を高めると考えられています。</p> <p>○乳がんの治療法は日々進化しています。5年相対生存率は約92%です。</p>	<p>○乳がん検診は、乳房エックス線検査(マンモグラフィ)による検診です。</p> <p>○精密検査の方法</p> <p>①マンモグラフィ</p> <p>②乳房超音波検査</p> <p>③生検:針を刺して、細胞や組織を採取し、顕微鏡で確認します。</p>	<p>40歳以上</p> <p>2年に1回</p>	<p>30歳以上の女性</p> <p>1年に1回</p>
子宮頸がん	<p>○女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。</p> <p>○20~30歳代の若い女性は乳がんに次いで多いがんです。39歳以下の日本人女性で子宮頸がんの発病や死亡が増えています。</p> <p>○子宮頸がんの発症には、その多くにヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関連しているとされています。子宮頸がんは検診とワクチンで予防が期待できます。</p> <p>○子宮頸がんは治る病気になりつつあります。5年相対生存率は約76%です。</p>	<p>○子宮頸がん検診は、ブラシやヘラで子宮頸部の細胞をこすりとり、顕微鏡で診断をします。</p> <p>○精密検査の方法</p> <p>①コルポスコープ検査:拡大鏡で観察し疑わしい細胞を採取します。</p> <p>②HPV検査:子宮の入り口(頸部)の細胞を採取して子宮頸がんの原因となるウイルスの有無を調べます。</p>	<p>20歳以上</p> <p>2年に1回</p>	<p>20歳以上の女性</p> <p>1年に1回</p>

- がん検診の結果が100%正しいというわけではありません。がん疑いと判定され、検査を受けたが異常なしで結果的に不要な検査を受ける可能性があります(偽陽性)。がん疑いなしと判定され、治療の遅れにつながる可能性があります(偽陰性)。
- 見つける必要のないがん(死亡につながらないがん)をみつけ、不要な治療を受ける可能性があります。

※がん検診指針:がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針,令和7年12月24日一部改正。

<がん検診を受けるにあたって>

- ☆健診の結果は(精密検査の結果も含まれます)医療機関から東栄町へ報告されます。このことに同意の上、がん検診を申し込んでください。
- ☆健診の結果『精密検査が必要』と判定された場合、必ず精密検査を受けてください。適切な精密検査を受けることで、がん検診の効果が発揮されます。検診で見つかるがんは治療可能ながんが多いです。
- ☆詳しくは、がん情報サービス(国立がん研究センター)右記QRコードからご確認ください。



がん検診は『1回受けたから安心』ではありません。
がん検診の後にがんができる可能性はあります。
がんの早期発見のためには定期的な検診をお願いします。

〈お問い合わせ〉 福祉課健康推進係 0536-76-1815

参考文献 :公益財団法人 がん研究振興財団:みんなで学ぶやさしいがんの知識2025
聖隷副事業団 保健事業部:がん検診・健康診断のご案内(注意事項について)